

摘要

本研究の目的は愛知県篠島と名古屋市南区を対象に島嶼部と都市部における子どもの遊び空間の世代間変化の特徴とその要因を明らかにすることである。

子どもにとって外遊びは子どもの心身の成長に大切な役割を果たすにもかかわらず、近年、子どもの外遊びが減少していることは深刻な問題である。この問題の中でも特に子どもが遊ぶことのできる場所すなわち遊び空間が減少していることに注目が集まっている。

そこで研究対象地域である愛知県篠島と名古屋市南区の人々にアンケート調査を行った。その結果、島嶼部では砂浜や海や山などの自然の遊び空間は世代が新しくなるにつれて減少し、家（室内）の遊び空間が増加していることが明らかとなった。都市部でも島嶼部と同様に世代が新しくなるにつれて田んぼや畑、川などの自然の遊び空間は減少し、家（室内）の遊び空間が増加している。しかし、この要因は島嶼部と都市部で異なる。島嶼部では自然の遊び空間は残っているものの、祖父母世代や父母世代に比べてゲームやおもちゃが普及し、それらが遊びの選択肢として増え、それを子どもが自然遊びよりも好む傾向にあり、遊び空間が変化したと考えられる。一方、都市部では田んぼや畑などは建物に変わり消滅し、川は危険を理由に遊ぶことができなくなった。これらのことから自然の遊び空間が消滅したため、遊び空間が公園や家（室内）となっていると考えられる。

ただし、本研究では、アンケート調査のみによって子どもの遊び空間の世代間変化を明らかにしたに過ぎず、限定な調査となってしまった。正確な遊び空間の復元を行うために聞き取り調査を交えたアンケート調査を行い、遊び空間の世代間変化をより正確に明らかにすることが今後の課題と言えよう。